日本数値流体力学会第１０期会長就任挨拶

Address of the 10th President of Japan Society of Computational Fluid Dynamics

久保田　弘敏*
*東京大学工学系研究科

Hirotoshi Kubota*
*University of Tokyo

E-mail:kubota@sonic.t.u-tokyo.ac.jp

第９期笠木伸英会長のあとをうけ、本学会第１０期会長を勤めさせていただくことになりました。周知のように、本学会は、１９９２年の設立以来、我が国の数値流体力学の発展および関連の国際活動に多大の貢献をなして来ました。本会は、毎年１２月に「数値流体力学シンポジウム」を主催し、年４回発行の「日本数値流体力学会誌」および英文の「Computational Fluid Dynamics Journal (CFD Journal)」を発行するとともに、国際数値流体力学シンポジウム（ISCFD）およびアジア数値流体力学会議（ACFD）の主要共催団体として、我が国の数値流体力学をリードし、関連の国際活動にも貢献してきました。会員数は決して多くはありませんが、理学、工学を通じて分野横断的な性格をもっていることが特徴です。「数値流体力学シンポジウム」には、本会の会員以外の参加者も多く、数値流体力学が社会に大いに寄与していることを示しています。また、和文誌は実際に役立つ記事が多いと好評であり、英文誌は学術的に国際的に非常に高い評価を得ています。

しかしながら、その反面、第９期笠木会長が本学会誌第９巻２号で述べておられるように、本学会では、産業界の会員が少ないこと、会員数が増加せず、会員の固定化、マンネリ化が危惧されること、財政基盤が脆弱であること、ボランティアで運営しているため、担当者の負担が過重となっていること、等の課題が指摘されています。第９期理事会では、笠木会長のリーダーシップのもとに、そのような課題を克服し、学会として更に社会に貢献してゆくために数々の改革がなされました。また、学会としての将来構想を多角的に検討し、その結果として(社)日本流体力学会との融合が提案されました。この提案は２００１年１２月１９日の平成１３年度通常総会で承認されましたので、２００２年２月に予定されている(社)日本流体力学会の総会での承認を待ち、本学会の会計年度が終了した直後の２００２年１０月１日をもって融合が行われることになります。

したがいまして、今期では、本学会と（社）日本流体力学会との融合に向けて具体的な案を検討することになります。総会後の第１０期第１回評議員会でも種々のご注意をいただきましたし、第９期で実施したアンケートの結果や、個別にいただいているご意見等を検討しつつ、真に実りある融合となるよう努力する所存であります。冒頭に述べたような、本学会

©日本数値流体力学会

としての優れているところは最大限に生かし、会員の財政的・業務的負担を軽減するとともに、サービスの向上が図れるようにして、規模の似た両学会にとってお互いにメリットとなり、その結果として我が国の流体力学の大いなる進展に寄与できれば幸いと考えます。

融合については、両学会間では大筋の合意が得られておりますが、なお、具体的な検討を深める必要があります。今後は、両学会の代表から成る「融合検討特別委員会（仮称）」を設置して、必要な事項を検討し、本年９月に臨時総会を開いて融合の最終決定をすることになります。これらのことにつきましては、別記総会、評議員会報告をご覧下さい。融合後に行われる第１６回数値流体力学シンポジウムでは、記念行事を行うこと、および企業からの参加を促すための企画を計画すること等も検討されています。

幸いにして、今期も強力な理事会メンバーに恵まれており、チームワークも十分です。今期の活動に関して、会員の皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

©日本数値流体力学会